

救急業務の実施状況

1 救急活動状況（前年比）

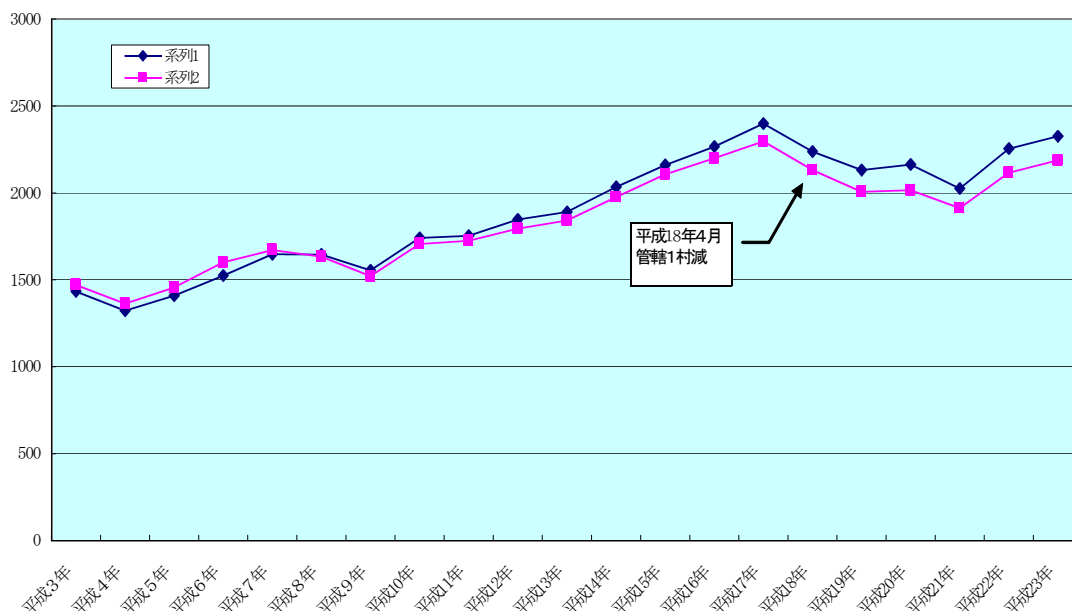
平成23年中における救急出場件数は2,326件（71件増）、搬送人員は2,187人（71人増）で、性別でみると男性が1,190人〔54.4%〕、女性が997人〔45.6%〕となっています。

このうち、御坊医療圏内【美浜町・日高町・由良町・印南町・日高川町・御坊市〔管外〕】への救急出場件数は1,689件（44件増）、搬送人員は1,604人（44人増）であり、田辺医療圏内【みなべ町】での救急出場件数は637件（27件増）、搬送人員は583人（27人増）でした。

また、総救急出場件数2,326件に要した活動時間は延べ約2,395時間、走行距離は延べ69,547kmで、救急隊による出場件数の内訳は、日高救急隊957件（49件減）・南部救急隊599件（6件増）・印南救急隊482件（67件増）・中津救急隊288件（47件増）の順となっています。

なお、救急救命士が行った高度救命処置件数は73件（73人）で、その状況については「6 救急救命士の活動状況」のとおりです。

年別救急出場件数及び搬送件数の推移



※ 昭和58年10月1日から救急業務運用開始。

※ 昭和58年から平成2年9月30日までは管轄7町村、平成2年10月1日からは管轄10町村。

- ※ 平成１６年１０月１日，南部町・南部川村が町村合併によりみなべ町となり，管轄９町村（管轄エリアの増減なし）。
- ※ 平成１７年５月１日，川辺町・中津村・美山村が町村合併により日高川町となり，龍神村が田辺市と合併し，管轄６町となるが，龍神村は田辺市との消防事務の委託により業務継続。（管轄エリアの増減なし）。
- ※ 平成１８年３月３１日，田辺市との消防事務の委託期間が終了したため，管轄６町となる。（龍神出張所管轄エリア減）

２ 救急活動の実態

（１）救急出場件数の内容

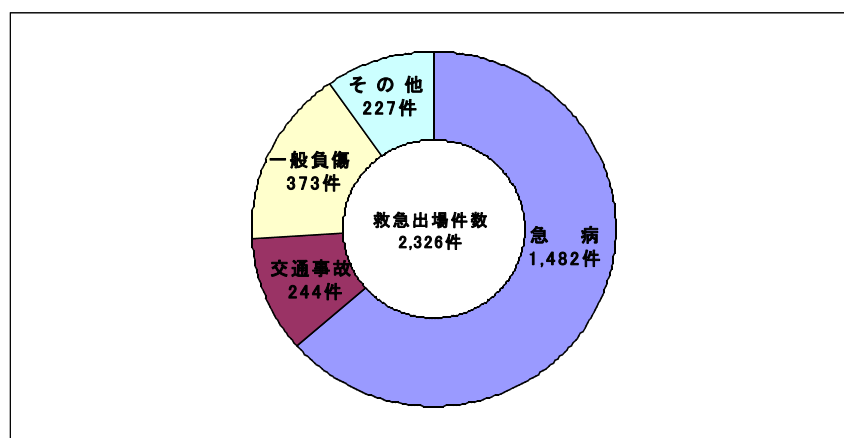
ア 事故種別（前年比） ― 第１表

救急出場件数２，３２６件の事故種別をみると，急病１，４８２件（４件増）・一般負傷３７３件（５件増）・交通事故２４４件（２４件増）・その他１２５件（２３件増）・自損３２件（１件減）・労働災害３２件（８件増）・運動競技１６件（１件増）・水難事故９件（１件減）・自然災害８件（８件増）・火災３件（２件増）・加害２件（２件減）の順となっています。

なお，急病〔６３．７％〕，一般負傷〔１６．０％〕及び交通事故〔１０．５％〕が救急出場件数全体の９割以上を占めています。

上記の事故種別割合を全国平均〔平成２２年中〕と比較してみると，急病〔全国６２．０％〕・一般負傷〔全国１３．８％〕の発生割合が高く，交通事故〔全国１０．２％〕の割合が低くなっています。

事故種別救急出場件数



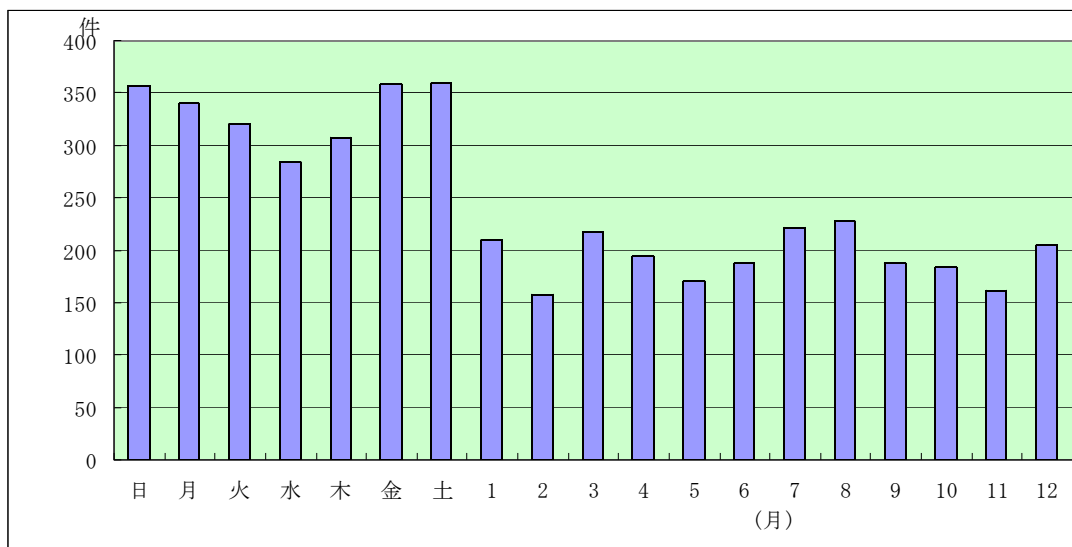
イ 曜日別出場状況及び月別出場状況（前年比） ― 第２表

平成２３年中の曜日別平均出場件数は，約３２２件（増減なし）であり，最も出場件数が多い曜日は，土曜日の３５９件（平成２２年中は，日曜日の３６５件）となっ

ています。

次に、月別出場状況を見ると、1ヵ月平均194件（6件増）の出場であり、最も出場件数が多かったのは8月の228件（平成22年中は、8月の228件）、次に7月の222件、3月の218件・・・の順となっています。

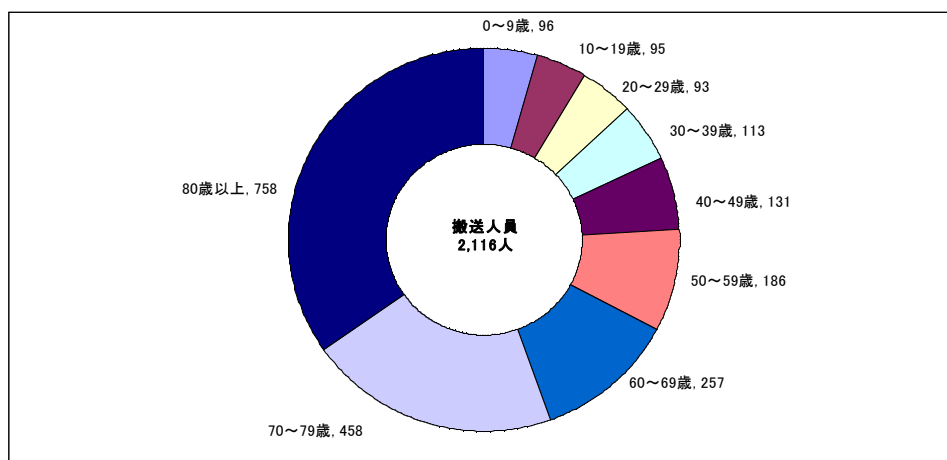
曜日別・月別救急出場件数



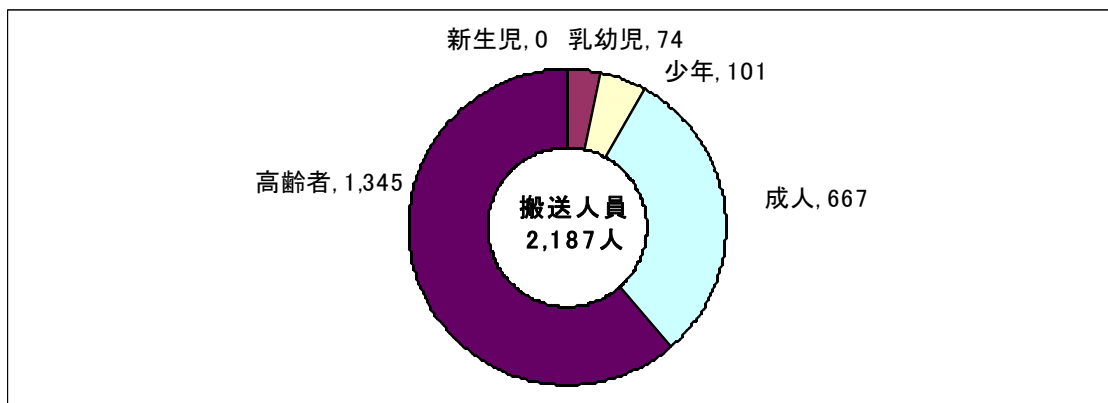
ウ 年齢別搬送人員状況（前年比） — 第3表

救急患者を年齢別にみると、80歳以上758人（32人増）、70歳代458人（31人増）、60歳代257人（28人減）、50歳代186人（19人増）、40歳代131人（9人増）・・・の順となっており、65歳以上の高齢者が1,345人で全体の61.5%〔平成22年全国51.0%〕を占めています。

年齢別搬送人員



年齢区分別搬送人員



※ 「新生児」：生後28日未満，「乳幼児」：生後28日以上満7歳未満，
「少年」：満7歳以上満18歳未満，「成人」：満18歳以上満65歳未満
「高齢者」：満65歳以上

エ 災害弱者等の搬送状況 —— 第4表

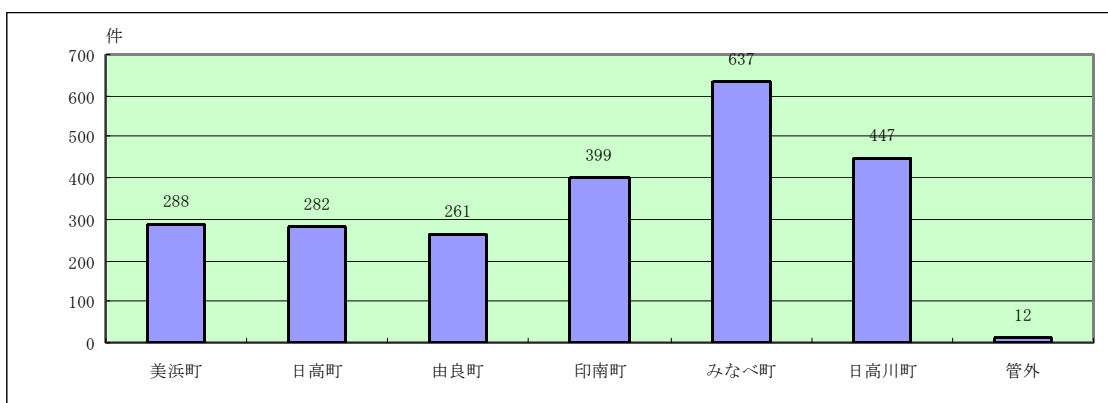
全搬送人員2,187人中417人(19.1%)が災害弱者であり，その内訳をみると，寝たきりの高齢者103人，独居の高齢者92人，在宅療法患者87人，認知症の高齢者58人，身体障害者40人・・・となっています。

また，在宅療法患者の在宅療法としては，酸素投与が最も多く41人となっています。

(2) 救急発生率及び利用率 —— 第5表

管轄町村別の救急出場件数は，みなべ町637件(27.4%)，日高川町447件(19.2%)，印南町399件(17.2%)，美浜町288件(12.4%)，日高町282件(12.1%)，由良町261件(11.2%)…の順となっています。

町村別救急出場件数



管轄町の全搬送人員からみた救急発生率〔管内住民１００人当たりの搬送人員〕は３．８人であり、同発生率から住民搬送状況をみると、住民の約２６人に１人が救急車を利用したことになります。

なお、救急車利用度の全国平均〔平成２２年中〕が２６人に１人であることから日高郡内での救急車の利用度は、全国平均となっています。

また、全搬送人員から救急車利用度を町村別にみると、みなべ町・印南町が約２４人に１人、日高川町が約２６人に１人、由良町が約２７人に１人、美浜町が約２９人に１人、日高町が約３０人に１人が救急車を利用したことになります。

(3) 救急車の活動率（前年比）

ア 隊別出場状況 ― 第６表

全救急隊（６隊）の１日当たりの平均出場件数は約６．４件（０．２件増）、１件当たりの活動所要時間は約６２分（１分増）、走行距離は約２９．９ｋｍ（０．５ｋｍ増）となっています。

全救急隊のうち１日当たりの平均出場件数が最も多いのは、日高隊の約２．６件（０．２件減）で、日高隊の出場件数は、出場件数全体の約４１．１％を占めています。

イ 覚知別出場状況 ― 第７表

救急出場件数２，３２６件を覚知別にみると、消防専用電話（１１９番）が１，８６７件（うち、携帯電話４８２件・ＩＰ３６８件）で全体の約８０．０％を占め、次いで加入電話の３４８件、駆付通報８５件、自己覚知２３件、その他３件となっています。

ウ 時間別出場状況 ― 第８表

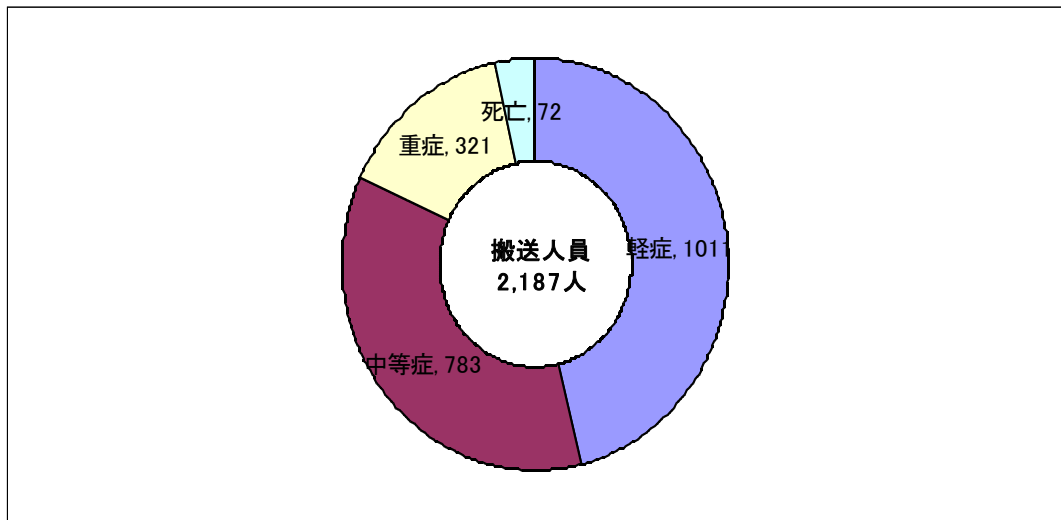
救急出場件数２，３２６件を時間別にみると、就業及び生活行動が活発化する午前８時から午後８時までの時間帯が１，５７６件で全体の約６７．８％を占め、深夜になるほど出場件数は減少しています。

(4) 傷病程度別搬送人員の状況（前年比） ― 第９表

平成２３年中に搬送した２，１８７人について、その傷病程度をみると、入院加療を必要としない軽症患者が全体の４６．２％（１．１％増）、入院加療を要するもので重症に至らない中等症患者が３５．８％（１．５％減）、３週間以上の入院加療を必要とする重症患者が１４．７％（０．８％増）、死亡が３．３％（０．４％減）となっています。

この割合を全国平均〔平成２２年中〕でみると、当消防本部では重症患者〔全国９．６％〕及び死亡〔全国１．５％〕の割合が高く、軽症患者〔全国５０．４％〕及び中等症患者〔全国３８．４％〕の割合が低くなっています。

傷病程度別搬送人員



- ※ 「死亡」：初診時において死亡が確認されたもの
「重症」：傷者の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
「中等症」：傷者の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
「軽症」：傷者の程度が入院を必要としないもの
「その他」：医師の診断がないもの及びその他の場所に搬送したもの

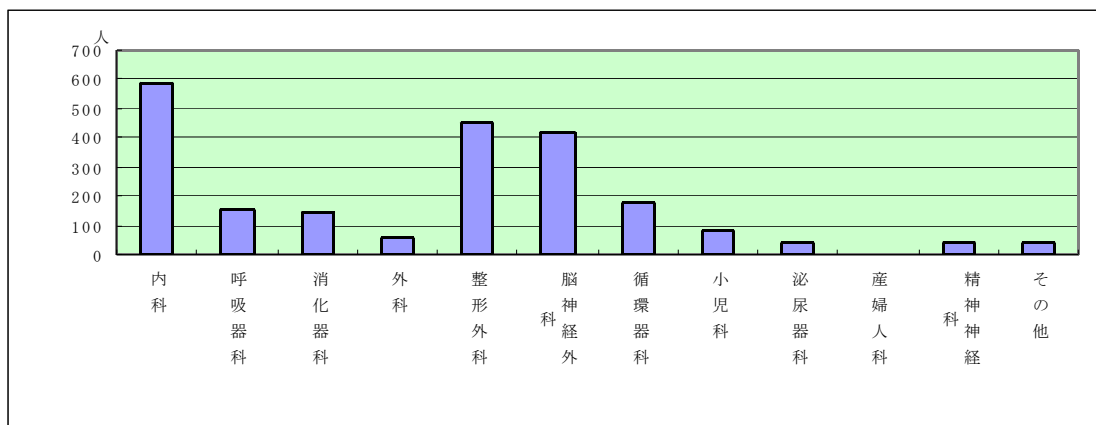
(5) 事故発生箇所別搬送人員状況 — 第10表

各傷病者を事故発生箇所別にみると、急病は住宅で発生したものが約78%を占め、交通事故は道路で約86%、一般負傷は住宅で約57%が発生しています。

(6) 診療科目別搬送人員及び収容状況 — 第11表

平成23年中に救急搬送した傷病者2,187人を診療科目別にみると、内科590人(27.0%)、整形外科453人(20.7%)、脳神経外科417人(19.1%)、循環器科175人(8.0%)、呼吸器科151人(6.9%)、消化器科143人(6.5%)・・・の順となっています。

診療科目別搬送人員



3 医療機関の実態

(1) 全救急隊（6隊）の救急患者収容状況

ア 医療機関別 ― 第12表

平成23年中に搬送した傷病者数は2,187人で、その収容状況を医療機関別にみると、第1位が日高病院の681人（31.1%）、第2位が北出病院の430人（19.7%）、第3位が紀南病院の259人（11.8%）、第4位が南和歌山医療センターの219人（10.0%）、第5位が和歌山病院の204人（9.3%）、第6位が北裏病院の201人（9.2%）の順となっています。

なお、これら上位6病院で全傷病者の約91.2%が収容されています。

(イ) 重症患者の収容状況 ― 第13表

全搬送人員のうち重症患者は321人で、その収容状況をみると第1位が日高病院の92人（28.7%）、第2位が北出病院の59人（18.4%）、第3位が和歌山病院の40人（12.5%）の順となっています。

(ロ) CPCR実施患者の収容状況 ― 第13表

CPCR（心肺脳蘇生法をいう。以下同じ。）を実施しながら医療機関に搬送した患者76人の収容状況をみると、第1位が日高病院の23人（各30.3%）、第2位が和歌山病院の18人（23.7%）、第3位が紀南病院の15人の順となっています。

イ 医療機関の所在地別収容状況 ― 第12表

収容医療機関の所在地別に救急患者の収容状況をみると、全傷病者のうち御坊市内の医療機関に1,315人（60.1%）、田辺市内医療機関に539人（24.7%）、管内である日高郡内の医療機関に243人（11.1%）、その他県内医療機関に90人（4.1%）となっています。

ウ 事故種別による収容状況 ― 第14表

事故種別からみて救急件数の多い急病、交通事故及び一般負傷について、それぞれの種別ごとに救急患者の医療機関収容状況をみると次のようになります。

(イ) 急病の場合は、第1位が日高病院の33.8%、第2位が北出病院の23.9%、第3位が和歌山病院の13.1%の順であり、これら上位3病院によって全急病患者の約70.8%が収容されています。

(ロ) 交通事故の場合は、第1位が北裏病院の36.2%、第2位が日高病院の21.0%、第3位が北出病院の11.1%の順であり、これら上位3病院によって全交通事故患者の約68.3%が収容されています。

(ハ) 一般負傷の場合は、第1位が日高病院の31.8%、第2位が北裏病院の23.2%、第3位が北出病院の12.6%の順であり、これら上位3病院によって一般負傷患者の約67.6%が収容されています。

(2) 転送搬送状況（前年比） ― 第15表

平成23年中の転送搬送件数（処置困難等の理由により、第一次搬送先医療機関で収容できないため、他の医療機関へ搬送すること。）は19件（4件増）であり、転送理

由は、処置困難が17件（89.5%）、専門外が2件（10.5%）となっています。

(3) 医療機関への収容依頼回数状況 — 第16表

医療機関への収容依頼回数は、平均1.2回であり、これは傷病者1人を収容するのに、平均1.2カ所の医療機関にしか収容依頼を行っていないことを意味するもので、この数字は、御坊・田辺両医療圏の救急体制の充実ぶりを反映したものといえます。

4 救急隊による応急処置の状況 — 第17表

平成23年中の搬送人員2,187人のうち、救急隊員が応急処置を行った救急患者は、2,180人（搬送人員の約99.7%）です。

救急処置の内容は血中酸素飽和度測定が最も多く2,095件、次いで血圧測定2,014件、心電図測定860件、保温859件、酸素558件・・・の順となっています。（不搬送を除く。）

なお、全搬送人員2,187人のうち76人に対してCPCRを実施しています。

次に、応急処置の実施率について全国平均（平成22年中）と比較してみると、全国が97.2%であり、当消防本部の実施率は、全国の実施率を上回っています。

5 救命の実態 — 第18-1表～第18-4表

(1) CPA患者及びCPCR患者発生状況

平成23年中のCPA患者（救急隊が現場到着時、既に心肺機能が停止している患者、又は病院到着時まで心肺機能が停止状態になった患者をいう。以下同じ。）は123人であり、平成22年中のCPA患者116人に比べ7人の増加となっており、全救急搬送患者に占める割合は5.6%で、過去3年間（平成20年から平成22年）の平均と同じです。

CPA患者123人のうち、救急隊がCPCR（心臓マッサージ及び人工呼吸）を施した患者は76人（全CPA患者の61.8%、全救急搬送患者の3.5%）となっています。

(2) CPCR患者の年齢別発生状況

CPCR患者を年齢別にみると、65歳以上の高齢者（61人）が全体（76人）の80.3%を占めており、CPCR患者の高齢者比率が高いといえます。

(3) CPCR患者の蘇生及び救命状況

CPCR患者76人のうち、蘇生（24時間以上入院した者）に成功したのは8人（蘇生率10.5%）となっています。

(4) CPCR患者の死因別状況

CPCR患者の死因（医師の診断に基づく。）をみると、心疾患によるもの（27人）が全CPCR患者（76人）の35.5%を占めており、次にその他（17人）22.4%、窒息（8人）10.5%の順となっています。

(5) 救急隊のCPCR着手までの時間

覚知から、救急隊がCPCRに着手するまでの時間は、5分から10分未満で32.

9%（25人）、10分から15分未満も27.6%（21人）、15分から20分未満が14.5%（11人）、20分から25分未満が10.5%（8人）となっています。

(6) バイスタンダーによる救命手当の実施状況

CPCR患者76人のうち、バイスタンダーにより人工呼吸、心臓マッサージのいずれか一方又はその両方が実施されていたものは18件（23.7%）でした。このうち、心臓マッサージと人工呼吸の両方が実施されていたもの3件（3.9%）、心臓マッサージのみ実施されていたもの15件（19.7%）、人工呼吸のみ実施されたものはありませんでした。

6 救急救命士の活動状況

平成23年中における救急救命処置（重度傷病者のうち、心肺機能停止状態の患者に対して、救急救命士が医師の具体的な指示に基づき実施した救命処置をいう。以下同じ。）は、救急隊員によりCPCRが施され、かつ、医療機関に収容された傷病者76人中73人に対して実施されており、救急救命士の活動状況については以下のとおりです。

(1) 出場状況

救 急 隊 別	出 場 件 数	搬 送 人 員
全 救 急 隊 (A)	2, 3 2 6 件	2, 1 8 7 人
救 急 救 命 士 乗 車 隊 (B)	2, 2 8 5 件	2, 1 8 1 人
救命士乗車比率 [(B)/(A)]	9 8 . 2 %	9 9 . 7 %

(2) 救急救命処置実施状況

救 急 救 命 処 置	実施件数	実 施 人 員
気 道 確 保	6 5 件	6 5 人（食道閉鎖式エアウェイ 5 5 人） （気管挿管 1 0 人）
静 脈 路 確 保	2 6 件	2 6 人（薬剤投与 4 人）
除 細 動	1 1 件	1 1 人

(3) 事故種別高度救命処置実施状況

高度救命処置	事 故 種 別					
	急 病	交 通	一 般	自 損	水 難	合 計
気 道 確 保	4 8	2	9	5	1	6 5
静 脈 路 確 保	2 0	1	3	1	1	2 6
除 細 動	1 1					1 1

(4) 指示病院からの具体的指示の状況

救急救命士が高度救命処置を実施するに際し、指示病院から受けた具体的指示の状況は、次表のとおりです。

指示病院名	指 示 病 院 選 定 理 由					
	かかりつけ	原因疾患	指示輪番	外 傷	その他	合 計 (%)
日 高 病 院	6		1 6			22 (30.1%)
和歌山病院	5		1 1		1	17 (23.3%)
北 出 病 院	2		8			10 (13.7%)
北 裏 病 院		1			1	2 (2.7%)
紀 南 病 院	1		1		1 3	15 (20.6%)
南 和 歌 山					7	7 (9.6%)
田辺中央病院						
そ の 他						
合 計 (%)	14 (19.2%)	1 (1.4%)	36 (49.3%)		22 (30.1%)	7 3

7 住民指導等

(1) 応急手当員（上級）講習の実施状況 —— 第19表

当消防本部では、平成8年6月から実施している応急手当員（普通救命）講習（消防庁が定める普通救命講習の別称）の修了者を対象に、平成23年6月7日に第15回目の「応急手当員（上級）講習（消防庁が定める上級救命講習の別称）」を実施し、男性29人、女性5人が受講し、全員が効果テストに合格しています。

なお、第1回からの総受講者数は393人となっています。

(2) 応急手当員（普通救命Ⅱ）講習の実施状況 —— 第20表・第21表

業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定されている者を対象とする応急手当員（普通救命Ⅱ）講習（消防庁が定める普通救命講習Ⅱの別称、平成17年から実施）は23年中は8人が受講しました。

(3) 応急手当員（普通救命Ⅰ）講習の実施状況 —— 第22表～第26表

応急手当員（普通救命Ⅰ）講習（消防庁が定める普通救命講習Ⅰの別称）を35回実施し、535人が受講しました。

なお、受講者の年齢層は、10歳代が405人（75.7%）と最も多く、次に30歳代の52人（9.7%）、20歳代の29人（5.4%）、40歳代の24人（4.5%）、50歳代の22人（4.1%）、60歳以上の3人（0.6%）となっています。

また、男女別では、男性が292人（54.6%）、女性が243人（45.4%）となっています。

次に、受講者を職業別にみると、学校関係者が422人（78.9%）、各種事業所関係者が66人（12.3%）、消防団関係者が41人（7.7%）、その他の団体が5人（0.9%）、個人受講者が1人（0.5%）となっています。

応急手当員（再）講習は26回実施し、366人が受講しています。

(4) 一般講習〔救急講習〕 —— 第27表

平成23年中において管内各地で行った救急講習会は69回で、1,899人に対して心肺蘇生法・水難救助法・骨折に対する固定法等の指導を行っています。